

日本損害保険協会では、日本国際保険学校（ISJ）をはじめ、国際会議での情報発信や個別地域支援を通じて、アジア保険市場の健全な発展に向けた保険技術協力を推進している。

### 日本国際保険学校（ISJ）

日本国際保険学校（ISJ）は、損害保険事業総合研究所との共催により1972年から毎年開催している東アジア諸地域に対する保険技術協力・交流プログラム。

#### 海外セミナー（9月）

■日本から講師を派遣して各地域のニーズに応じたテーマで講義を行う。ミャンマー・ヤンゴンで実施。

・保険事故の増加に伴い損害調査担当者の育成が急務となっている同国の要請を受け、日本の損害調査ノウハウを紹介。

・現地で保険協会設立の検討が進む中で、日本の協会、研究所、料率算出団体の役割、再保険の意義について説明。

・金融庁からも講師を派遣いただき、規律ある市場の形成に向けた保険監督の枠組みを紹介。



#### 上級・一般コース

■各地域の損害保険会社、保険監督官庁等の職員を日本に招いて、約2週間のスケジュールで講義やワークショップを実施。

・上級コース(5月)  
東アジア13地域・24名が参加。

・一般コース(10月)  
東アジア14地域・35名が参加。

※各コースには金融庁グローバル金融連携センター研究員がオブザーブ参加。

### 国際会議での情報発信

#### 東アジア保険会議マカオ大会（10月）

■東アジア保険会議（EAIC）は1962年に東京で発足したアジア最大の国際保険会議。

・「災害復旧における保険業の役割」をテーマとするパネルディスカッションで、当協会からプレゼンテーションを行い、日本の保険業界における「災害リスク認識向上の取組み」や「地震保険金の早期支払いの取組みと成果」を紹介。

・「東日本大震災の経験は、東アジア地域の災害への取組みにおいてキーになる」として、参加各国を中心に高い関心が寄せられた。



#### ASEAN保険会議（AIC）（11月）

■ASEAN各国の保険協会間の協力促進を目的として設立された会議。当協会は、各国保険協会との交流促進を目的として2013年からオブザーバー参加。

・自然災害に係る調査・対応を論議する部会（ANDREWS）において、当協会から、熊本地震への対応、官民協力による「国土強靱化」の取組みへの参画を紹介し、損害保険業界が自然災害に対して果たす役割についてプレゼンテーション。

・ANDREWSでは、災害に対する保険協会のあり方が論議され、当協会の活動が模範になるとの評価を得た。AICメンバー協会に対するノウハウ提供を要請され、協力を約した。



#### その他の取組み

- ・カンボジアに対する募集人テキストの英訳版送付(9月)
- ・ベトナム保険協会・自動車保険制度調査団受入れ(4月)

- ・中国保険行業協会・保険募集制度調査団受入れ(4月)
- etc

### 【開催告知】アジア損害保険エグゼクティブフォーラム

2017年5月に当協会が100周年をむかえることを機に、アジア各国・諸地域の保険監督官庁や損害保険協会などのトップ層を東京に招待し、損害保険市場の健全な発展に向けた論議を行うフォーラムの開催を予定している。